

## ■ドイツ：バイエルン州、直流超高圧送電線のルートを西に移動するよう要求

2015年5月22日の報道によると、バイエルン州のアイグナー経済相は南北ドイツを結ぶ直流超高圧送電線「ジュートリンク」のルートを現在の計画からさらに西に移動し、同州を通過する区間を減らすよう要求した。「ジュートリンク」計画は、風力による北部の余剰電力を脱原子力政策によって電力が不足する南部に輸送するために各州の合意によってまとめられたものであるが、2014年に計画が動き出した直後にバイエルン州が計画の再考を唱えたことにより、現在は中断している。今回の要求では、送電線の終点を同州北部のグラーフエンラインフェルトではなく西の州境であるグントレミンゲンとすることで、ルートの大部分は西に移動し、バイエルン州の建設区間は420kmから大幅に縮小することになる。逆に工区の増える西隣のバーデン・ヴュルテンベルク州、ヘッセン州からは批判の声があがっている。両州は、バイエルン州の要求が通れば、送電系統運用者 TenneT も送電線の経路を変更するための行政手続きや系統安定度の計算をやり直さなければならず、目標とされる2022年の運転開始が最低でも3年以上遅れるとしてバイエルン州を批判している。